

HTB制作

## テレメンタリー2016「野生のいのち 死の連鎖」

## 科学放送高柳賞 優秀賞を受賞

北海道に飛来する絶滅危惧種のオオワシとオジロワシが、列車にはねられ命を落とすことが頻発している謎を追った、HTB制作のテレメンタリー2016「野生のいのち 死の連鎖」が、2016年度の科学放送高柳賞の優秀賞を受賞しました。

科学放送高柳賞は、科学技術の振興とその知識の向上に役立つ優れた科学放送番組を奨励し、番組内容の向上に寄与することを目的とした賞で、優れた科学放送番組を表彰している権威ある賞です。審査では「オオワシとオジロワシの列車衝突死がエゾシカの列車事故とつながっていたという野生動物の死の連鎖の実態を丹念に追うことによって、野生動物保護の重要性を訴えた」ことが高評価されました。

今回の受賞について、プロデューサーの山田佳晴は「どうすればワシの事故が防げるのか提言するのが本作の狙いでした。またエゾシカの事故も傍観したくありませんでした。こうした問題提起が野生動物保護への一歩につながると信じています」と話しています。

【受賞番組】 テレメンタリー2016「野生のいのち 死の連鎖」(日時違い全国ネット)

【放送日時】 2016年7月13日(水) 深夜1時05分～1時35分(北海道ローカル)

ナレーション	高橋 ひかる
ディレクター	山上 暢
撮影	本田 海
編集	芝原 久美子
プロデューサー	山田 佳晴

## 【番組内容】

絶滅危惧種のオオワシとオジロワシ。冬の間、北海道に飛来する希少な野鳥が相次いで命を落とした。1年間で13羽。列車との衝突が原因だった。

釧路市で野生動物の保護に取り組む猛禽類医学研究所の齊藤慶輔獣医師は、ワシに小型の発信機を取り付け、その行動を解析した。すると、ひとつの特徴が明らかになった。ワシは魚を求めて、水辺と線路を往復していたのだ。なぜ、列車とぶつかる危険がある線路周辺にとどまるのか？ ワシの死骸をレントゲンで調べると、エゾシカの肉を食べていたことが分かった。つまり、列車がエゾシカをはね、そのシカの肉を食べに来たオオワシが事故に遭っていたのだ。例年であれば、オオワシやオジロワシは凍った湖での「氷下待ち網漁」で漁師が捨てる魚を食べることが多い。しかし、この冬は暖冬で漁期も短く、おこぼれにあずかることができにくくなっていた。ワシは魚の代わりとしてエゾシカの肉の味を覚えたのだ。そもそも道内では、エゾシカの事故が多発している。その数は毎年1000件前後。1日に2～3頭が列車にはねられているのだ。なぜ、シカは線路に群れるのか？ 仮説として浮かんできたのは「鉄分」だった。シカやオオワシの生態を追い、「死の連鎖」を防ぐ手だてを探った。